

子ども教育委員会会議



日 時：平成 25 年 8 月 9 日（金）13：30～15：30

場 所：教育委員会 6 階 A・B 会議室

札幌市教育委員会

1 はじめに

札幌市教育委員会では、今後 10 年間の札幌市の教育に関する総合計画となる新たな「札幌市教育振興基本計画」の策定にあたって、子どもの意見を取り入れるために、「子ども教育委員会会議」を開催しました。

この会議では、7月に各学校（小・中・高等学校、計 10 校）で開催した意見交換会に出席いただいた児童生徒の中から各校原則 1 名（計 10 名）を「1 日子ども教育委員」（以下、「子ども教育委員」という。）に任命し、2つのテーマについて意見交換を行いました。

このたび、子ども教育委員会について報告書をまとめましたので、ご報告いたします。

2 開催概要

■ 日時

平成 25 年 8 月 9 日（金）13：30～15：30

■ 場所

札幌市教育委員会 6 階 A・B 会議室（札幌市中央区北 2 条西 2 丁目 S T V 北 2 条ビル）

■ 実施内容

「学習について」、「いじめ・不登校について」の 2 つのテーマについて、子ども教育委員 10 名で校種（小学校、中学校、高等学校の種類）を超えた意見交換を行いました。オブザーバーとして札幌市教育委員 6 名も参加しました。

3 会議の内容

(1) 町田教育長から挨拶

はじめに、札幌市教育委員会の町田教育長から挨拶をしました。

(2) 子ども教育委員の任命

町田教育長から、子ども教育委員のみなさんへ、任命状を交付しました。

(3) 自己紹介

子ども教育委員のみなさんと札幌市教育委員がそれぞれ自己紹介を行いました。



(4) 意見交換

子ども教育委員の中から、新川高校の高橋未紅さんに子ども委員長を、開成高校の中野凧沙さんに子ども副委員長をお願いし、二人の進行のもと、意見交換を行いました。

① 学習について

■スピーチや授業中の発表について

○人前で話す力は、実際に経験しなければ養われないので、授業のちょっとした時間や休み時間を使ってでもスピーチをする時間を取り入れた方がいいと思います。（中学生）

○授業中の発言が苦手な人は、たとえ問題の答えがわかっているにもかかわらず発表しません。発表を完全に強制にすることはだめだけれど、そうでなければ、発言が苦手なスピーチができない人はいつまでたってもできないままだと思うので、順番を学校の方で決めて順番に沿って発表させることがいいのではないかと思います。（小学生）

○私の学校でも国語や総合的な学習の時間を利用して一人一人が自分の考えをスピーチする時間がありますが、得意な子もいれば、人前で話すことが恥ずかしいという子もいます。恥ずかしいという子に対して、学校がうまく対応できていないのではないかと感じる部分があるので、うまく対応していただければいいなと思います。（中学生）



■チーム・ティーチングや少人数授業について

○今の授業は楽しいけれど、分からない人ができています。少人数授業（習熟度別学習）は、「分からない人」しか行かないものなので、本当は少し分かっていない部分もあるけれど「分からない人」として行くことは恥ずかしい、という人が多いです。分からないことは恥ずかしいことではなく、学校は分からなくていい場所なので、自分から少人数授業に行けるようになれば良いと思います。（小学生）

○私の学校では空き教室を使って少人数授業を行っています。3年生から6年生までみんながやるので、3年生が使っている時は、6年生は使えないといった状況です。もっと少人数授業をする機会を増やせたらいいと思います。（小学生）



○私の学校では、先生が「分からなかったら聞きなさい」と1回全員に言って、休み時間も廊下に来てくれることがあります。最初は行きたがる人が少なかったけれど、一人が行き始めるとみんな聞きに行くようになりました。今はテスト前になると「先生教えて！教えて！」という状態が学校にできているので、そうした取組は他の学校でもやった方がいいと思います。

（中学生）

○高校生になると、友達と放課後の教室を使って一緒に勉強している際などに、分からないところを友達に聞いたり、見回りにきた先生に聞いたりすることができます。お互いに助け合ってやっていく、ということが多いです。

（高校生）

○私の学校では、夏休み中に分からない人は学校に補習に行って、先生が指導してくれるという取組があります。そうした取組は、先生に分からないところを直接聞くチャンスなので、増やしていったほうが良いと思います。（中学生）



■体力について

○学校で、ラジオ体操を覚えてそのテストをするという授業がありました。面倒くさいといった理由でダラダラやっている人がいましたが、ラジオ体操が美容に良い、筋肉がほぐれて肩こりに良いということを聞いたことがあるので、もっと身体を動かすことに楽しみや喜びを持てるような授業を取り入れてくれるといいな、と思いました。（中学生）

○中学生になると、身体を動かすことがあまり好きではない人は体育の授業でしか体力づくりをする機会がないと思います。何かを企画して外に出る機会をつくるということは大事だと思います。

（中学生、高校生）

○新体力テストについて、以前、テストの本番で反復横跳びのルールが分からず、何回かストップをかけられてしまったことがあるので、そういったことがないように事前の練習が必要だと思います。（小学生）

○私の学校では、新体力テストのクラスごとの平均点数を出し、競い合います。そうすればみんな勝ちたいので一生懸命やるし、私も記録が伸びたので良かったです。（小学生）



○大縄など、全員で参加できる競技であれば不思議と一体感が生まれ、みんなで頑張ろうという気になれるので、授業や行事でもそういった競技を増やしたほうが良いと思います。そうすればみんなと協力する大切さが分かるし、クラスの連携も高まります。また、体力の向上にも繋がると思います。（中学生、高校生）

■札幌らしさについて

○授業でスキー学習はあるけれど、もっと雪を使った遊びや、札幌らしい遊びをすれば楽しいと思います。例えば、雪合戦やかまくら作りは一人ではできないので、みんなで協力するという事も学べると思います。（小学生）

○小学校3年生か4年生の頃にアイヌ民族の勉強をして、すごく楽しかったです。でも、今アイヌの民族ことを聞かれると全然覚えていない。日本全体だけでなく、北海道のこともきちんと知っておかなければいけないと思うので、1つの学年の時だけではなく、全学年で北海道に関する授業を増やしたほうが良いと思います。（小学生）

○小学校2年生の頃、雪まつりにみんなで行くという行事がありました。すごく楽しかったと記憶しています。札幌は雪があって綺麗だということは誇るべきことだと思し、雪に触れ合うことはいいことだと思います。（中学生）



○簡単な雪像を作って地域の人に見ていただいて感想をいただくだけでも、色々な人が小学校に集まってくれるので嬉しいです。笑っている人を見ると、嬉しいな、頑張ってたよかったなと思える時があるので、そういった取組を小学校の頃から行っていくと良いと思います。（小学生）

■職場体験について

○実際に仕事に就いている人の講演会を企画すると良いと思います。親の職業など身近な職業については分かる部分もあるけれど、どんな仕事なのか全く分からない職業や、そもそもそんな職業があること自体を知らないといった職業について学ぶ機会があると良いと思います。（中学生）

○工場見学に行ったとき、学びに行っているのは分かっているけど、ただ楽しいだけで終わってしまい、何を学んできたのか忘れてしまった、ということがありました。楽しいことも大事だけど、工場を見て、何を学んだかということも大事だと思います。（小学生）



○人生で1～2回しか職場体験に行ったことがない状態で、先生に将来何をやりたいのかと聞かれても、少ししか経験したことがないのに決められないと思います。もっと増やしてもらわなければ、選択肢の幅は広がらないと思います。

（中学生）

○私の学校では中学1年のときに職場訪問があるけれど、それ以外は職業のことにはあまり触れず、高校についての話ばかりされています。そもそもどんな仕事があるかもわからないのに、将来のことを考えて進路を決めるよう言われ、余裕がなくなってしまう人もいます。世の中にはどんな仕事があって、その仕事はどんな内容なのかを知る機会があればいいなと思います。



（中学生）

○将来のことは、考えないよりは考えた方が良くと思うけれど、将来についての授業を増やしすぎると、今の勉強がおろそかになってしまうので、将来のことばかりを言い続けるのもあまりよくないと思います。（小学生）

■命を大切にする指導について

○いじめる人もいじめられる人も色々な理由があるにしろ、死んでしまうことは一番よくないことだと思う。学校でも、自分の命は自分で守ること、大事な命だから死んでしまうこと自体が罪だということを教わっているんで、これからも命を大切にする指導をしていくことが必要だと思います。（中学生）

○道徳の副読本を使った授業は小学校の頃からやっていたけれど、中学生になると、道徳の時間が面倒くさいと言ったり、面白半分で考えていたり、真剣に道徳の授業を受けている人が少ないように感じています。自分が感じたことを話し合う場を設けた授業ができれば、と思いました。

（中学生）

○先生だけではなく、友達も支えてくれると、自分にも仲間がいると感ずることができて、心強いと思います。そうすれば自殺もなくなると思います。（小学生）

② いじめ・不登校について

○かなりひどいいじめをされて不登校になってしまった生徒がいて、どうして先生が気づいてあげられなかったのかな、と思います。もっと周りに目を配れる先生がいればいいと思います。

（中学生）

○いじめられる人はおとなしい性格の人が多い気がするので、電話で相談してアドバイスされても、自分から行動することは難しいと思います。それよりも、担任の先生や友達の方から直接何かを言ってあげる、してあげるの方が大事だと思います。（小学生）

○いじめのことは、アンケートなどに書けば、先生にしか見られず、他の人に見られる心配がないので、直接相談するよりもアンケートの方がいいと思います。（小学生）

○札幌市でやっている電話相談窓口はあるけれど、相談する相手は自分のことを知らないよりも、知っている相手のほうが良いと思います。知らない人の方が客観的に指摘できる部分はあるかもしれないけれど、身近で自分のことをよく知っていて親身になってくれる人の方が私はありがたいと思います。（中学生）

○嫌な先生には相談しにくいけれど、信頼している先生には相談しやすいので、先生と生徒が信頼関係を作っていければ、いじめも不登校もなくなると思います。（小学生）

○先生の方から、いじめられているかもしれない子に、先生に相談するよう働きかけることが大事だと思います。いじめられている側の人、いじめている側の人、また、周りで見ている人たちも同様に、自分から勇気を踏み出して行動するということを大事にしていけばもっと状況は良くなるのではないかと思います。

（高校生）

○いじめを根絶しようとする取組も必要だけれど、いじめは、いじめられている人がいじめだと感じた時からいじめになるという話を聞いたことがあるので、失くすのは難しいと思います。だから、いじめをエスカレートさせるような空気を作らないということが必要なのではないかと思います。（中学生）



○いじめを面白がってやっている人がいるのは許せないことだと思う。一人一人が、相手がどう考えているのかということを意識できればいいなと思います。（中学生）

○生徒同士のいじめはもちろん、先生をいじめるという話を聞いたことがあるので、学校全体でいじめ防止に取り組むことが必要だと思います。（中学生）

○自分がいじめられていると感じるような行為の度合いは人によって差があると思う。いじめられていると言っている人の勘違いかもしれないので、いじめたと言われた人をすぐに叱るのではなく、きちんと確認することが必要だと思います。（小学生、中学生）

○相手の一部分だけを見て嫌いと言うのではなく、相手の良い面も見つけるような考え方をできれば良いと思います。（中学生）



○いじめられている人をかばえば、次は自分がいじめられるのではないかと感じるので、守ってあげられなかったという経験があります。もし、自分一人ではなく大人数でかばってあげることができれば、自分がいじめられるのではないかと考えるのを考えずに済むので、みんなでかばってあげられるようにすれば良いと思います。（小学生）

山中委員長からの感想

最後に、山中教育委員長から感想をお話し、閉会しました。

「（山中教育委員長挨拶一部抜粋）今日は本当に活発なそして貴重な意見をいただき本当にありがとうございました。本日いただいた様々な意見を学校教育に反映させるため、教育委員会という組織の中で検討し、皆さんの意見を色々取り入れていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。」



(5) 記念撮影

閉会后、子ども教育委員、札幌市教育委員、「札幌らしい特色ある学校教育」キャラクター（ゆっぽろ・ちっきゅん・おっほん）で記念写真撮影を行いました。



子ども教育委員のみなさん、ありがとうございました。

○会議出席者

1 子ども教育委員 10名（名簿のとおり）

2 札幌市教育委員

山中教育委員長、臼井教育委員、池田光司教育委員、池田官司教育委員、阿部教育委員、町田教育長

3 事務局出席者

西村教育次長、梅津生涯学習部長、渡邊学校施設担当部長、金山学校教育部長、引地指導担当部長、大友教育研修担当部長、杉村総務課長、平井企画調整担当課長、齊藤指導担当課長、井上庶務係長、信太調査企画担当係長、札幌調整担当係長、工藤指導担当係長、山田指導担当係長、西尾指導主事、松岡調査企画担当係員、大津調整担当係員

子ども教育委員名簿

氏名	ふりがな	学校名	学年
波多野 萌	はたの もえ	北光小学校	6年
高野 千花	たかの ちか	もみじの森小学校	6年
小山 大翔	こやま ひろと	平岸高台小学校	6年
郷 彩花	ごう さやか	向陵中学校	3年
市原 茉莉	いちはら まり	向陵中学校	3年
樋口 達也	ひぐち たつや	新川西中学校	3年
田中 彩乃	たなか あやの	平岡中央中学校	3年
吉田 友香	よしだ ともか	琴似中学校	3年
高橋 未紅	たかはし みく	新川高校	3年
中野 凧沙	なかの なぎさ	開成高校	2年

各学校での意見交換会の結果

＜意見交換会実施概要＞

- 1 期間 平成 25 年 7 月 9 日（火）～平成 25 年 7 月 25 日（木）
- 2 実施校 小学校 3 校（もみじの森小学校、平岸高台小学校、北光小学校）
中学校 4 校（向陵中学校、新川西中学校、琴似中学校、平岡中央中学校）
高校 3 校（清田高校、新川高校、開成高校）
- 3 参加児童生徒 児童会・生徒会の役員ほか 計 72 名（男子 28 名、女子 44 名）

{	小学生 23 名（男子 8 名、女子 15 名） 中学生 35 名（男子 13 名、女子 22 名） 高校生 14 名（男子 7 名、女子 7 名）	}
---	--	---

＜主な意見＞

■学ぶ喜びを感じることのできる学習

- ・楽しく学習するためには、学習が楽しいものだとして大人も含めて理解する必要がある。子どもたちに学ぶ目的や意識を持たせることが必要。（中・高校生）
- ・学んだことが社会に出たときに役に立つということが分かれば、学ぶ意欲が高まるので、新聞を使った授業を展開してほしい。（高校生）
- ・板書を写すだけの授業ではなく、自分で調べたり、自分の意見を発表したり、他人と意見交換することで、学んだことが頭に入るし、考えも深まる。（小・中・高校生）
- ・今の授業は楽しいが、分からない人、できない人が出てくることがある。授業のレベルが上がるにつれて、分からない人は増えていくので、TT、少人数授業、習熟度別の授業をもっと取り入れてほしい。（小・中学生）
- ・新体力テストや体力向上のイベントがあると、クラスごとなど、皆で協力して練習するとともにクラスの人たちと仲良くなれるから良い。（小学生）
- ・長期休業中に体育館やグラウンドを開放するなどして運動に親しむ機会を増やしてほしい。（中学生）
- ・自分のなりたい仕事の現場に実際に行き、働いている人の意見を聞いて、普段は見ることのできないところなども見るような職場体験の機会を増やしてほしい。そうすると、将来に対する自分の意思が高まる。（小・中・高校生）
- ・将来の夢は「美容師」になることだが自信がない。そういうことを誰に相談したらよいか分からない。（小学生）
- ・自然と触れあうことで、心が豊かになるので、自然に関わる学習を増やしてほしい。（高校生）
- ・社会に出たときのために、授業の中でスピーチする時間を設け、人前で話す経験やコミュニケーション能力を高める実践を行うなどの工夫をしてほしい。（中・高校生）
- ・ディベートなどを通して、一緒に学んでお互いに高め合う「共に学ぶ」ということも必要ではないか。（高校生）

■共に生きる喜びを感じることでできる学習

- ・命を大切にしている指導が少ない。道徳では、副読本を読んだり、ビデオを見たりして感想を書いて終わりではなく、みんなの意見を交流させるようなことがあったら良い。実践的な取組（例えば、赤ちゃんを抱かせることで命を大切にしている心を育むなど）も必要ではないか。（小・中学生）
- ・社会性の育成は必要だが、校内でとどまっている。他校との交流など色々な意見を聞く機会があると良い。（高校生）

■札幌の良さを感じて、豊かな想像力を育むことでできる学習

- ・小学校で、「わたしたちの札幌」を学び（3年生）、また、地域で探検したが、その後、札幌の特色について学んだ記憶はない。観光客に聞かれたときに札幌のことを知らないのは恥ずかしいと思う。継続的に札幌について学ぶ機会を増やしたほうが良い。（中学生）
- ・札幌らしさ＝スキー学習とあるが、スキー学習に限らず、もっと雪を使った遊び（例、雪合戦・かまくら作り）をする機会があれば良い。（高校生）

■とぎれのない学習をするための学校種間（小学校と中学校など）の連携

- ・小学生の頃に、中学校に見学へ行き、中学校の先生の授業を受けることができると良い。（小・中・高校生）
- ・大学のオープンキャンパスのようなことを高校でもできたらよい。中から高への進学は学力とかで決めているが、より高校の内容を知った上で、進路を選択できるような取組が必要。（高校生）
- ・小学校と中学校の先生同士の交流があると良い。例えば、小学校から中学校へ進学する際に、先生から先生へ子どもの状況を伝えて引き継ぎを行うようなことも大事ではないか。（中・高校生）

■安全・安心や、環境のことを考えた学校の整備

- ・東日本大震災では、何日も避難所で生活したと聞いた。私たちはその恐怖を知らないので、訓練で1日でも体験できると良い。（小学生）
- ・小学校の時に抜き打ちの避難訓練をしたがパニックになった。本当に災害にあった時に役立つような取組が必要。（中学生）

■学校の先生の指導力向上

- ・ある先生と、別の先生とで言うことが正反対だったりすることがまれにある。学校で方針などをきちんとまとめて、先生達もそれに沿って指導をしてくれた方が混乱しなくて良い。（小学生）
- ・「将来こんな大人になりたい」と思える先生を学校に送ってほしい。そういった先生を増やすために、先生方の勉強会をたくさんするなど、工夫してほしい。（中学生）
- ・生徒が集中できる楽しい授業を行ってほしい。例えば、教科書に載っていない豆知識を授業に織り交ぜるなど。（高校生）
- ・進路や学習だけではない部分で一人一人と向き合う先生がいてほしい。（高校生）

■いじめや不登校などの対策

- ・いじめについて、先生に相談しても、先生が注意した時だけ収まって、またすぐ始まるのではないか。（小学生）
- ・悩みごとによって、相談する相手は変わる。自分と関係の浅い人には相談できない内容もあるし、身内には相談できない内容もある。年齢が近い方が相談しやすいこともあるので、高校生に相談する機会があるといい（顔見知りである必要はない）。（中学生）
- ・親や先生への相談は大切だが、話しづらいこともある。親や先生の方から探ったり、聞いてあげたりすることも必要。（中学生）
- ・担任は親以外の一番身近な存在のはずだが、高校になると、朝と帰りしか会わないこともあり、担任のことをそもそもあまり知らない。週に一度でも、担任と生徒が関わる時間があると担任への信頼も違うのではないか。生徒とのコミュニケーションを大事にしてほしい。（高校生）
- ・スクールカウンセラーを呼ぶだけではなく、先生方にもカウンセリングの技能を身につけるなども必要では。（中学生）
- ・スクールカウンセラーが学校に来るが、自分のことをよく知っている人に相談したい。（高校生）
- ・話すより書くほうが良いので、アンケートを多くやってほしい。（小学生）
- ・いじめる側、いじめられる側、それぞれの気持ちがわかるような活動をして、いじめに関する理解を深めることが必要。（中学生）
- ・お金がないことで等しく学ぶ権利がなくなり、同じスタートラインにすら立てないこともある。そのような人が出ないような制度を構築してほしい。（高校生）

■地域と学校が支え合う仕組みづくり

- ・1～3年生のときには地域の人と風車をつくる活動などがあった。そういうものがあると地域のおじいさん、おばあさんと仲良くなることができる。（小学生）
- ・地域の人のおかげで今の小学校生活が送れているが、感謝の気持ちを伝える機会が少ない。もっと地域の人に感謝の気持ちを伝える機会がほしい。（小学生）
- ・吹奏楽部で、お年寄りや地域の人の前で演奏した時、演奏を聴いて泣いてくれた人がいてうれしかった。部活単位だけではなく、学校単位で地域の人とかかわる機会があると良い。（中学生）
- ・市立高校の生徒会のリーダー交流会で、もっと地域の人との交流を増やすべきとの意見が出た。地域（高校の近隣）の人と一緒に川の掃除やゴミ拾いなどをするという意見が出たが、生徒会で企画するのは大変なので、きっかけを市教委で与えてくれると良い。（高校生）

<意見交換の様子>



北光小



向陵中



新川高